

ネオニコチノイド系農薬問題

	助成先/企画名/活動内容	成果物
2011 年度	<p>助成先:ネオニコチノイド系農薬の使用中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) ネオニコチノイド系農薬 国際シンポジウム 「ミツバチ・生態系・子どもたちを守るために」～ 欧州に学ぶネオニコチノイド対策～</p> <p>(活動内容) ネオニコチノイド系農薬について、対策が進むヨーロッパの規制状況を学び、日本での予防原則に役立てるための緊急セミナーを開催。 1、「ネオニコチノイド系農薬のミツバチへの影響」大谷剛さん(兵庫県立大学教授) 2、「ドイツ・EUでのミツバチ被害の実態」ウォルター・ヘフェカー(Walter Haefeker)さん(ヨーロッパ職業的養蜂家連盟代表) (午後) 3、「EUのネオニコチノイド農薬規制とイギリスの現状」マット・シャルドラウ(Matt Shardlow)さん(英NPO団体バグライフ代表) 4、「環境化学物質と子どもの脳の発達障害 ネオニコチノイド・有機リン農薬の危険性」 黒田洋一郎さん(脳神経学者・元東京都神経科学研究所) (2011年11月12日 国際協力機構研究所 国際会議場)</p>	<p>1 DVD「ミツバチからのメッセージ」 http://no-neonico.jp/dvd_index/</p> <p>2 ネオニコチノイド系農薬 緊急セミナー開催 「ミツバチ・生態系・子どもたちを守るために」～ 欧州に学ぶネオニコチノイド対策～ http://no-neonico.jp/wp-content/uploads/2012/02/kokusai_seminar.pdf</p>
	<p>助成先:ネオニコチノイド系農薬の中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) DVD『赤とんぼがいない秋』制作</p> <p>(活動内容) 近年の赤トンボの減少について様々な映像証言を積み重ね、その原因と言われるネオニコチノイド系農薬の問題点を描いたDVD『赤とんぼがいない秋』を制作。上映会も積極的に実施</p>	<p>DVD「赤とんぼがいない秋」 http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/akatonbo-dvd.pdf</p>
	<p>2011年度 助成先:ネオニコチノイド系農薬の使用中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) 「危機にあるミツバチの世界セッション」土と平和の祭典ステージ (2011年10月16日 日比谷公園)</p> <p>(活動内容) ネオニコチノイド系農薬の問題をについて、養蜂の現場から警告するセッションが行われました。小さな生き物たちの共生の和・循環の輪の破壊と健康被害への現状について、藤原誠太(藤原養蜂場長)、久志富士男(養蜂家)、富山一子(養蜂家)が報告。</p>	<p>ネオニコチノイド系農薬中止を求めるネットワークHP http://no-neonico.jp/dvd_index/</p>

2011 年度	<p>助成先:ネオニコチノイド系農薬の使用中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) 「松枯れ防止の農薬空中散布の中止を求める院内集会」</p> <p>(活動内容) 講演内容 ・「松くい虫防除の農薬空中散布は本当に必要か」中下裕子(ネオニコネット事務局 長ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議事務局長) ・「生態系の構造と人為的干渉の影響」青木淳一(横浜国立大学名誉教授) ・「植物生態学から見た松枯れの位置づけ」林一六(筑波大学名誉教授) ・「農薬口中散布による人体被害」田口操(長野県在住者) (2011年11月30日 衆議院第2議員会館/東京)</p>	ネオニコチノイド系農薬中止を求める ネットワークHP	http://no-neonico.jp/dvd_index/
2012 年度	<p>助成先:ネオニコチノイド系農薬の中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) ネオニコネット広報活動</p> <p>(活動内容) ミツバチの大量死とネオニコチノイド系農薬の関与を証言する科学者や養蜂業者の 様々な声を収めたDVD『ニコチンビー』を翻訳字幕をつけ上映権付きで販売。ミツバ チの大量死問題を追及したドキュメンタリーDVD「ミツバチからのメッセージ」、「赤とん ぼのいない秋」とともに上映会を日本各地で開催。一万人規模の波及効果があっ た。 イベント出展としては、ファームエイド銀座と土と平和の祭典に出展し、リーフレット配 布、DVD 販売、関連書籍の販売を実施。</p>	<p>1 映画「ニコチンビー」について(上映会 募集/DVD販売案内)</p> <p>2 『ニコチンビー』についてのチラシ</p> <p>3 「ミツバチからのメッセージ」DVD販売 案内</p> <p>4 ネオニコネットの活動紹介とネオニコ 問題のチラシ</p> <p>最終報告書</p>	<p>http://no-neonico.jp/2013/041/</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_neonicokoho_2.pdf</p> <p>http://no-neonico.jp/dvd_index/</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_neonicokoho_3.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_neonicokoho.pdf</p>
	<p>助成先:子どものアレルギーから食と環境を考える NPO みれっと</p> <p>(企画名) ネオニコチノイドは蜜蜂だけの問題じゃない</p> <p>(活動内容) 子育て中の親たちに、食品や家庭用品などを通じ日常的にネオニコチノイド系農薬 にさらされているという現状に気づいてもらうため、リーフレット『子どもの脳を守っ て！大人が知らないといけないこと』を作成。DVD「ミツバチからのメッセージ」や「ニコチ ンビー」の上映会とともに配布し啓蒙・広報活動を実施。</p>	<p>1 角田和彦医師による「ネオニコチノイ ド農薬への提言」とアンケート</p> <p>2 リーフレット「子どもの脳を守って！大 人が知らないといけないこと」</p> <p>3 「ミツバチからのメッセージ」解説書</p> <p>4 「ニコチン・ビー」解説書</p> <p>最終報告書</p>	<p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_millet_1.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_millet_2.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_millet_3.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_millet_4.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_millet.pdf</p>

2012
年度

3	<p>助成先:後藤純子</p> <p>(企画名) ミツバチの側からみた蜂群大量死の実態をひろめるプロジェクト</p> <p>(活動内容) 養蜂家としてミツバチを見つめ続けた作者が、穏やかなミツバチの暮らしとともにミツバチの大量死という悲しい現実を描いた絵本『だれもしらないみつばちのものがたり』を制作。読み聞かせという形で普及活動を実施。</p>	1	『だれもしらないみつばちのものがたり』Kindle電子書籍(日本語版)	http://www.amazon.co.jp/%E3%81%A0%E3%82%8C%E3%82%82%E3%81%97%E3%82%89%E3%81%A%A%E3%81%84%E3%81%BF%E3%81%A4%E3%81%B0%E3%81%A1%E3%81%AE%E3%82%82%E3%81%AE%E3%81%8C%E3%81%9F%E3%82%8A-Junko-Gotoh-ebook/dp/B00RFXPN5M
		2	『A TALE OF A QUEEN BEE』Kindle電子書籍(英語版)	http://www.amazon.co.jp/TALE-QUEEN-BEE-English-ebook/dp/B00RFZNVNG/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1433552441&sr=8-1&keywords=A+TALE+OF+A+QUEEN+BEE
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_hogun.pdf
4	<p>助成先:ネオニコチノイド系農薬の中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) ネオニコフリー・生きもの認証システムの推進</p> <p>(活動内容) 「生きもの」に焦点をあてた「生きもの認証システム」づくりに取り組む。認証システムの基礎基準の整備、帳票類作成などのシステム作りと、「生きもの認証システム」を使った具体的な認証プロジェクトを実施。</p>	1	日本在来種みつばち協会「生きもの認証」基準	http://hp-a-00002.x0.com/5/topics/9
		2	認証書式関係書類一式	
		3	生きもの調査・公開確認会報告書	
		4	リーフレット	
		5	みつばちの里の米認証袋	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_neoniconinsyo.pdf

2012年度

5	<p>助成先: ネオニコチノイド系農薬の中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) ネオニコネット政策提言活動</p> <p>(活動内容) ①国際会議「生態系と子どもたちを農薬から守るために～EUの農薬規制から学ぶ～」を開催。農薬問題、養蜂問題、化学物質規制問題に取り組むEUのNGO代表3名がEUでの農薬規制について報告。(2012年12月9日) ②1回目の院内集会で、無人ヘリコプターの農薬散布の問題及び、長野県での農薬空中散布問題について住民運動代表者を招き報告。(2012年11月20日) ③2回目の院内集会で、IPM(総合的害虫管理)に関する学習会を開催し、農薬に依存しない害虫管理の在り方について報告。(2013年3月25日) ④「持続可能な農業のための農薬管理・規制に関する提言書」を作成。農水省と環境省の担当部局、衆議院・参議院の農水委員会・環境委員会の国会議員などにも配布。</p>	1	12月9日国際シンポジウム配布資料	
	2	11月20日院内集会配布資料		
	3	ニュースレターでの院内集会・国際市民セミナー報告記事	http://kokumin-kaigi.org/wp-content/uploads/2012/08/Newsletter078.pdf	
	4	持続可能な農業のための農薬管理・規制に向けた提言書	http://kokumin-kaigi.org/?p=1646	
	5	3月11日の斑点米学習会と3月25日の院内集会のニュースレター報告記事	http://kokumin-kaigi.org/wp-content/uploads/2013/08/Newsletter80.pdf	
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_seisakuteigen.pdf		
6	<p>助成先: 一般社団法人 佐渡生きもの語り研究所 大石麻美 新潟大学大学院 自然科学研究科 堂谷紗希</p> <p>(企画名) ネオニコチノイド系殺虫剤による水田生態系への影響評価</p> <p>(活動内容) ①クロチアニジンとジノテフランに着目し、処理水田と無農薬水田における食物網を構成する各生物の個体数と種多様度に及ぼす本剤の影響を評価。 ②水田生態系における生物濃縮の有無を明らかにするため、水田水と土壌、水生生物におけるクロチアニジン、ジノテフランの残留蓄積量を評価。 ③これらの解析結果を受けて、農業者、行政、および研究者を交え公開シンポジウムを開催。</p>	1	「島の新聞」記事	
	2	サドテレビ ニュース放送		
	3	abt 向け報告書		
	4	11/11 マス全体発表資料		
	5	合同セミナー一覧表		
	6	ネオニコアンケート報告書		
	7	3/16 シンポ発表資料		
	8	同ポスター	http://sado-ikimonoken.ip/sub/130316_neonico.	
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_suideneikyo.pdf		
7	<p>助成先: 竹ノ内敏一</p> <p>(企画名) ネオニコチノイド農薬空中散布におけるヒトの健康被害に関する調査</p> <p>(活動内容) 長野県坂城町にて有人ヘリコプターによるネオニコチノイド系殺虫剤チアクロプリドの空中散布が計画されたため、地域住民へのアンケート調査、および尿中チアクロプリドの定量分析法の確立と住民の随時尿の定量分析を実施。</p>		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_takenouchi.pdf

2013 年度

1	<p>助成先: 竹ノ内敏一</p> <p>(企画名) 「空中散布されたネオニコチノイドの飛散調査」</p> <p>(活動内容) 2013年6月長野県千曲市において、松枯れ対策としてネオニコチノイド系殺虫剤チアクロプリドの有人ヘリコプターによる空中散布の殺虫剤の飛散(漂流飛散、ドリフト)調査と地域住民のアンケート調査を行った。</p>	1	abt 向け報告書: 「2013年千曲市ネオニコチノイド系殺虫剤空中散布における大気・落下物分析, およびヒトの健康被害に関する調査報告書」	
		2	23回臨床環境医学会学術大会講演予稿。「2013年千曲市ネオニコチノイド系殺虫剤チアクロプリド空中散布における大気・落下物分析, および住民の健康アンケート調査結果」	http://health.env.kyoto-u.ac.jp/23-amisce-office/src/sc722/83v838d83o83898380.pdf
		3	環境化学投稿論文(2014年5月7日投稿済み): 「長野県千曲市で行われた有人ヘリコプターによるチアクロプリド空中散布におけるドリフト調査」	
		4	報告会・講演会: 2014年3月2日千曲市総合観光会館「千曲市殺虫剤空中散布調査結果, 報告会と講演会」開催。報告: 竹ノ内敏一, 講演: 鎌田素之様、DVD上映; 御園孝様	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_takenouchi_01.pdf
2	<p>助成先: 神宮字 寛</p> <p>(企画名) フィプロニルを成分とする苗箱施用殺虫剤のリスクを緩和する栽培方法の探索</p> <p>(活動内容) 野生生物への影響が大きいネオニコチノイド系やフェニルピラゾール系の浸透移行性殺虫剤は不使用が望ましいが、農業現場では多く使われている。現状の代替案として代替農薬とリスクを緩和する使用方法を提案するため以下2点を実施。</p> <p>1 トンボのヤゴに影響の少ない浸透移行性殺虫剤を明らかにする。 2 使用量を90%削減しながら害虫防除効果を維持する額縁栽培方法の効果を検証する。</p>	1	平成26年度農業農村工学会全国大会発表(2報、26年8月28-30日、新潟大学で開催)	
		2	平成26年度農業農村工学会東北支部大会発表(2報、26年10月28-30日、宮城大学で開催)	
		3	平成26年宮城県JAリーダー会議での成果発表(26年10月中旬を予定、宮城県)	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_jinguji_01.pdf

2013
年度

3

助成先:米の検査規格の見直しを求める会

(企画名)

秋田県農林水産部への斑点米カメムシ類による経済的損失回避策の転換に係る要請

(活動内容)

カメムシによる米の着色粒(いわゆる斑点米)の割合で米の等級が決まるという農産物検査制度のため、米農家はカメムシ防除対策のネオニコチノイド系農薬を使用せざると得ないという現状の中、こうした制度を見直すべきとの意見書を秋田県農林水産部に提出。

- (1) 過大な等級価格差の是正
- (2) 農薬散布徹底の推奨をやめる
- (3) 農薬散布に頼らずに斑点米被害を回避する対策を促すなどの要請を実施。

1	秋田県 農林水産部からの回答書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_komenokensa_03.pdf
2	【速報】秋田県知事に脱ネオニコの要請書を提出しました	http://hantenmai.sakura.ne.jp/doc/140304_sakigake.pdf
3	秋田魁新報 2014年3月4日朝刊	http://hantenmai.sakura.ne.jp/news/n_140303-0.html
4	朝日新聞 2014年3月4日朝刊	http://hantenmai.sakura.ne.jp/doc/140304_asahi.pdf
5	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_komenokensa_01.pdf

2013
年度

4

助成先:ネオニコチノイド系農薬の中止を求めるネットワーク

(企画名)

ネオニコフリー・生きもの認証システムの推進

(活動内容)

2012年に引き続き、「生きもの」に焦点をあてた「生きもの認証システム」づくりに取り組む。認証システムの基礎基準の整備、帳票類作成などのシステム作りと、「生きもの認証システム」を使った具体的な認証プロジェクトを実施。

1	改定「生きもの認証基礎基準」「日本みつばち認証基準」申請書	http://no-neonico.jp/wp-content/uploads/2014/08/20140215%E3%83%BB%E7%94%9F%E3%81%8D%E3%82%82%E3%81%AE%E8%AA%8D%E8%A8%BC%E7%AC%AC%E7%89%88%E7%BC%80
2	生きもの認証ロゴマーク	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_neoniconet_03.pdf
3	茨城県内3地域の認証申請書	
4	公開確認会・対話集会開催資料(公開準備中)	
5	シンポジウムパンフ及び開催資料7月シンポジウム(概要&申込用紙)	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_neoniconet_04.pdf
6	12月報告会みつばちの認証シンポジウム(概要&申込用紙)	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_neoniconet_05.pdf
7	2月「子ども達の未来のために」環境シンポジウム報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_neoniconet_06.pdf
8	販売イベントの資料(公開準備中)	
9	茨城県外地域(福島県須賀川市)での資料	
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_neoniconet_01.pdf

2013
年度

5	<p>助成先: 一般社団法人日本在来種みつばち協会</p> <p>(企画名) ネオニコチノイド系農薬フリー地域づくり</p> <p>(活動内容) 大規模な水田・里山エリアでの空中散布中止を実現していくことを目標とし地域全体で取り組む。近隣住民による田んぼの生きもの調査の実施など、非農家の地域住民や行政とともに安全な米作りができる地域づくりを実施。</p> <p>①茨城県笠間市上郷地区、稲敷市釜井地区、大子町生瀬地区で農薬空中散布の実施状況を調査し、ネオニコチノイド空中散布中止に向けた会議を開催。 ②笠間市上郷地区において 150ha という大規模な水田・里山エリアでの空中散布中止を地域全体で実現していくことを目標とし、ネオニコチノイド系農薬の空中散布を65件中、36件が中止。次年はさらに4件が中止予定。 ③田んぼの生きものを指標にするために地域で生きもの調査の指導者育成、及び田んぼの生きものシンポジウムを開催。「どんと焼き」などの地域イベントで非農家の地域住民にも活動をPR。 こうした活動が実を結び、行政の補助金を受けて色彩選別機を導入し玄米選別実施で1等米比率あげると言う事例をつくること出来た。</p>	1	大子町生瀬地区、稲敷市釜井地区、笠間市上郷地区の空中散布状況図	
	2	25年度空散有り無し圃場被害粒比較	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_03.pdf	
	3	田んぼの生きものワークショップ報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_04.pdf	
	4	田んぼの生きものシンポジウムと「どんと焼き」報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_05.pdf	
	5	「子ども達の未来のために」環境シンポジウム報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_06.pdf	
	6	上郷地域ネオニコフリー地域づくり報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_07.pdf	
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_01.pdf	
6	<p>助成先: NPO 法人河北潟湖沼研究所</p> <p>(企画名) 河北潟地域におけるラジコンヘリ散布を行わないエリアの拡大とカメムシ米のブランド化</p> <p>(活動内容) ネオニコチノイド系農薬を使用しないエリアを作り、同時に生物多様性を保全するための取り組みとして、ネオニコチノイド系農薬のラジコンヘリによる空中散布をおこなわないことと、畦の除草剤散布をおこなわないことを条件とする「生きもの元気米」の栽培を進める。 「生きもの元気米」水田では生物調査を実施し、その結果を広く公開することで付加価値を付けることとした。こうした条件により2軒(2014年田植え時点で4件)の農家がそれぞれ1筆の2014年度の作付けをおこなうこととなった。</p>	1	チラシ・注文用紙「蛙いっぱい田んぼを」	http://kahokugata.sakura.ne.jp/pdf/pamph/ikimonogenkimaierder.pdf
	2	パンフレット「ひろめよう！生きもの元気米」	http://kahokugata.sakura.ne.jp/pdf/pamph/ikimonogenkimai.pdf	
	3	クリアファイル「河北潟の田んぼを元気にするためには」	http://kahokugata.sakura.ne.jp/pdf/pamph/ikimonogenkimai.pdf	
	4	報告書「無農薬水田と慣行水田の生物相の比較調査結果及び生物多様性保全のための自主基準について」		
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_kahokugata_01.pdf	

2013
年度

7	<p>助成先: 特定非営利活動法人 棚田LOVER's</p> <p>(企画名) ネオニコフリーを広げるための棚田を切り口とした学習会・食事会、フォーラム開催による人材育成、普及啓発事業</p> <p>(活動内容) ・ネオニコチノイド系農薬の現状の理解度を把握するアンケート調査、学習会の実施 ・農村でのネオニコチノイド系農薬を使っていない食事会の開催 ・ネオニコフリーを広げるための農や食のことを学びあう学習交流会の開催 ・フォーラムの開催</p>	1	11月16日収穫祭チラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_03.pdf
	2	学習会のアンケート結果	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_04.pdf	
	3	3月1日:講演会チラシ 2000部	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_05.pdf	
	4	ネオニコフリー宣言文	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_06.pdf	
	5	みんなで考えた自分自身ができることシート	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_07.pdf	
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_01.pdf	
	8	<p>助成先: 一般社団法人生きもの認証推進協会</p> <p>(企画名) 「生きもの認証システム基礎基準」における生きもの観察指導員(Bioアナリスト)養成、「ネオニコフリー農業による地域づくり」のパイロットプロジェクト構築及びそれらの実績の公表</p> <p>(活動内容) 「生きもの認証システム基礎基準」における生きもの観察指導員(Bioアナリスト)養成、「ネオニコフリー農業による地域づくり」のパイロットプロジェクト構築、及びそれらの実績の公表</p> <p>生きもの調査のスキルを体得し、環境保全型農業の現場を観察・分析して生物多様性を評価し、環境に配慮した農産物であるという評価を与える。そうしたユニークな農産物認証制度の実現に向けて、その担い手である「Bioアナリスト」を養成する講座を開催。ネオニコチノイド農薬はもちろん農薬全般を使用しない農作物作りを目指す。</p> <p>・生きもの認証推進協会のHPの作成 ・「Bioアナリスト講座」の募集チラシ作成 ・同講座の講習会会場の選定、メールマガジン、ブログ配信等による参加者募集、企業のCSR部門への案内、営業等広報活動全般</p>	1	生きもの認証推進協会ホームページ
2		Bioアナリスト講座申込システム		
3		アグリイノベーション大学の特別講座パンフレット	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_ikimono_03.pdf	
4		Bioアナリスト養成講座募集チラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_ikimono_04.pdf	
5		オルタナWebマガジン及びyahooニュースに掲載「水田環境把握し、持続可能な農業へ——『Bioアナリスト』養成講座」『オルタナ』(2014/4/7)	http://alternas.jp/work/challengers/51323	
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_ikimono_01.pdf	

2013
年度

9	<p>助成先: 後藤純子</p> <p>(企画名) ミツバチの側からみた蜂群大量死の実態をひろめるプロジェクト</p> <p>(活動内容) 2012年度同様、絵本『だれもしらないみつばちのものがたり』の読みきかせを実施。絵本はamazonでの販売も開始。</p>	1	『だれもしらないみつばちのものがたり』Kindle電子書籍(日本語版)	http://www.amazon.co.jp/%E3%81%A0%E3%82%8C%E3%82%82%E3%81%97%E3%82%89%E3%81%A%A%E3%81%84%E3%81%BF%E3%81%A4%E3%81%B0%E3%81%A1%E3%81%AE%E3%82%82%E3%81%AE%E3%81%8C%E3%81%9F%E3%82%8A-Junko-Gotoh-
		2	『A TALE OF A QUEEN BEE』Kindle電子書籍(英語版)	http://www.amazon.co.jp/TALE-QUEEN-BEE-English-ebook/dp/B00RFZNVNG/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1433552441&sr=8-1&keywords=A+TALE+OF+A+QUEEN+BEE
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_goto_01.pdf
10	<p>助成先: 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン</p> <p>(企画名) ネオニコチノイド系農薬規制を実現するプロジェクト</p> <p>(活動内容) 持続可能な農業「人間(農業従事者、消費者)にも、生態系にもやさしい農業」が一般的となる社会を目指し、2016年までに2013年時点でのEUと同等のネオニコチノイド系農薬の規制を実現するための活動を2013年末から開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本格的な活動に向けて、消費者の行動や考えを理解するためのマーケットリサーチを実施。 ・キャンペーンキャラクターを作成しFacebookやウェブサイトを利用したキャンペーンの準備を行った。 ・生産者の有機農法との関わり方や、農薬に対する思いなどを集めた証言をビデオに記録、ウェブサイトで順次公開。 ・クロチアニジンの残留農薬基準緩和に関するパブリックコメントに対し、FacebookやTwitterでパブリックコメントを書いて提出するよう広く呼びかけた。1657件のパブコメが寄せられ、その99%が規制緩和に反対する内容となった。 ・パブコメ終了後も、グリーンピースのウェブサイト上で緊急オンライン署名を開始(1月17日から2月13日)。約4週間で12,739筆もの署名が集まった。NGO4団体(ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議、日本有機農業研究会、ネオニコチノイド系農薬中止を求めるネットワーク、反農薬東京グループ、グリーンピース・ジャパン)で厚生労働省や農水省に署名を提出・申し入れを行う。 	1	食に関する意識調査	
		2	.bee my friend キャンペーンロゴマーク	http://beejp.org/
		3	生産者への聞き取り調査ビデオ	http://beejp.org/
		4	緊急オンライン署名のウェブサイト	http://www.greenpeace.org/japan/nic/
		5	ブリーフィングペーパー「EUで開始されたネオニコチノイド系農薬の規制に関して」	http://www.greenpeace.org/japan/ja/library/publication/20131206/
		6	クロチアニジンの残留基準の緩和の凍結とネオニコチノイド系農薬の毒性評価の見直しを求める要請書	http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2014/pr20140203/
		7	厚生労働省への申し入れ後などに報道された新聞記事 2013年11月～2014年3月まで合計記事57件	

2013 年度		8 厚生労働省の作業部会の委員に農薬の資料を送付		
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_gpj_01.pdf	
	11	助成先:NPO法人F.O.P (企画名) ミツバチからのメッセージ(ダンスミュージカル) (活動内容) 「だれもしらない みつばちのものがたり」ダンスミュージカル制作,映像化に向けて、台本づくり、出演者募集のチラシ、映像、楽曲制作を実施。	1 ミュージカル「A Tale of One Queen Bee」台本	
		2 楽曲 3 曲「オープニング」「乱舞」「求愛・結婚」		
		3 参加者募集用チラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_fop_03.pdf	
		4 参加者募集用映像	https://www.youtube.com/watch?v=wsrTYrVU4To&feature=youtu.be	
最終報告書		http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_fop_01.pdf		
2014 年度	1	助成先:Task Force on Systemic Pesticides/TFSP・WIA 東京実行委員会 (企画名) 浸透性農薬が生物多様性と生態系に及ぼす悪影響に関する「世界的な総合評価書」(WIA)の成果普及と議論喚起 (活動内容) 2014年6月26日午後、参議院員会館で「TFSPによるメディアと政策決定者のための『浸透性農薬世界的総合評価書(WIA)』研究成果発表会」を開催した。ネオニコチノイドについての研究成果を学術的見地から世界的規模で検証し、整理した研究成果であり、発表会では、ミツバチや蝶などへの影響だけでなく、人間への影響についても研究成果が開示された。	1 TFSF によるメディアと政策決定者のための「浸透性農薬世界的総合評価書(WIA)」研究成果発表会(プレスリリース)	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_tfsp_03.pdf
		2 WIA報道発表(日本語翻訳版)	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_tfsp_04.pdf	
		3 WIAメディア説明会資料(日本語翻訳版)	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_tfsp_05.pdf	
		4 浸透性農薬タスクフォースのビデオ説明(日本語翻訳版、成果物 8 に収録)		
		5 LORENZO FURLAN 氏の発表スライド(英語)		
		6 山田敏郎氏の発表スライド(英語版及び日本語版)		
		7 平久美子氏の発表スライド(英語版及び日本語版)		
		8 会議映像中継アーカイブ	http://www.actbeyondtrust.org/report/1936/	
		9 参加者名簿		

2014
年度

10	「ミツバチの大量死と日本人の未来 ネオニコチノイド系農薬に科学者たち が警鐘～IUCN/TFSP による『浸透性 農薬世界総合評価書(WIA)』研究成 果発表会」IWJ(2014.6.26)	http://iwj.co.jp/wj/open/archives/148695
11	「ネオニコ系農薬はミツバチ減少の要 因」——800の論文を基に国際的な科 学者チームが発表(オルタナオンライ ン 2014.6.26)	http://www.alterna.co.jp/13216
12	2.「IUCN が浸透性農薬に関する世界 的な総合評価書を公開——グリーン ピース、農薬が地球に及ぼす悪影 響を証拠づける研究成果と歓迎」グ リーンピース・ジャパン(2014.6.26)	http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2014/pr201406261/
13	「ネオニコチノイドなど浸透系農薬に 関する研究発表:撮影記録」都市生活 者の農力向上委員会 (2014.6.27)	http://www.blog-headline.jp/agriability/2014/06/post_233.html
14	「浸透性農薬の生態系への影響をま とめた評価書が発表されました。」日 本自然保護協会『NACS-J 事務 局日誌』(2014.6.27)	http://www.nacsj.or.jp/diary2/2014/06/post-490.html
15	石井徹「行動しない国、日本」朝日新 聞夕刊(2014.7.23)	
16	「浸透性農薬の禁止を！研究者らが 成果を発表」仏教新聞(2014.7.28)	
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_tfsp_01.pdf

助成先:NPO 法人 河北潟湖沼研究所

(企画名)
生きもの元気米(生物多様性認証米)の取り組みによるネオニコチノイドフリーエリアの拡大

(活動内容)
2015年3月末の時点で取り組みへ参加表明する農家が5軒となり、生きもの元気米の栽培圃場の面積は90aから140aに拡大した。
生きもの元気米の販売では、積極的な直接販売も実施し合計1.5トンを3月末までに完売した。さらに2015年度米の早期予約も3月末で約750kg分があり、栽培面積の拡大を図ることになった。

2

1	冊子「ネオニコチノイド系農薬を使わ ない米づくりは可能か？ 生きもの元 気米でつくる豊かな水田生態系」	http://kahokugata.sakura.ne.jp/publications/pamph.html
2	論文「河北潟周辺の圃場におけるラ ジコンヘリによる農薬の一斉空中散 布前後での陸生無脊椎動物群集の 比較」河北潟総合研究 18 巻(印刷中 成果物 1 に収録)	http://kahokugata.sakura.ne.jp/publications/pamph.html
3	日本自然保護大賞授賞式・活動発表 会パンフレット「保護実践部門 生きも の元気米を生み、生物多様性保全 の道標となった河北潟レッドデー タブック」	http://www.nacsj.or.jp/katsudo/award/2015/02/38.html#01

2014 年度

・生物多様性アクション大賞2015において、生きもの元気米がえらぼう部門の優秀賞を受賞。
 ・生きもの元気米を含む河北潟地域での保全活動が日本自然保護大賞保護実践部門を受賞。
 ・12月11～13日に開催されたエコプロダクツ展において、ネオニコチノイド系農薬の問題点と生きもの元気米の取り組みをアピールした。
 ・ネオニコチノイド系農薬の問題、生きもの元気米の取り組み、河北潟での圃場の生物調査の結果等をまとめた冊子「ネオニコチノイド系農薬を使わない米づくりは可能か？ 生きもの元気米でつくる豊かな水田生態系」(B5版 28ページ)を1200冊作成した。
 ・水野玲子さんを招いてのシンポジウム開催

4	生物多様性アクション大賞 2015「えらぼう部門 生きもの元気米」	https://5actions.jp/award2014/result.html
5	「河北潟米をブランド化 農薬を制限『生きもの元気米』」北國新聞(2014.4.24)	
6	「『生きもの元気米』初出荷 津幡のNPO、農薬制限」北國新聞(2014.9.19)	
7	「河北潟の保護で大賞」北陸中日新聞(2015.2.3)	
8	「津幡のNPOに自然保護大賞」読売新聞(2015.2.3)	
9	「自然保護大賞に河北潟湖沼研究所」北國新聞(2015.2.3)	
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_kahokugata_01.pdf
1	養蜂家への聞き取り調査まとめ	
2	学習会向け資料	
3	学習会、ワークショップ、練習過程の様子を伝える映像作品の制作	
4	募集チラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_fop_03.pdf
5	ダンスキャンプチラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_fop_04.pdf
6	公演チラシ・ポスター	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_fop_05.pdf

助成先:NPO法人 F.O.P

(企画名)
ミツバチからのメッセージ

(活動内容)
みつばちの大量死を描いた物語「だれもしらないみつばちのものがたり」(著者 後藤純子さん)を原作としたダンスミュージカルの制作を行なった。多くの人に知ってもらうことが必要と考え、「ダンス」という切り口で若者を中心に参加の呼びかけを行なった。参加者は、地元のダンススクールに通う子供から社会人、ダンス未経験者、計61名が出演。参加アーティストは、伊那谷で活動しているミュージシャン20名。公演日は、みつばちマーケット、ネオニコチノイドについての展示設営を行なった。来場者は計600名で二部とも満席。新聞一面記事となり、再演の依頼も頂き、まずは多くの方に知ってもらうという目標の第一歩を踏み出した。今後ダンスミュージカル制作の様子、当日の舞台を映像化する予定。

2014
年度

		7 当日パンフレット	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_fop_06.pdf
		8 『『ミツバチ』テーマの舞台公演 陣馬形山でロケ撮影』長野日報 (2014.9.29)	http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=32408
		9 「ミツバチの生態伝える ロケ完了」南信州新聞 (2014.9.30)	
		10 「中川で来月 8 日『ミツバチ』ミュージカル」長野日報 (2015.2.19)	http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=33517
		11 「ミツバチ大量死テーマにミュージカル人の暮らし演劇で問う」朝日新聞長野版 (2015.3.3)	http://www.asahi.com/articles/ASH334H75H33UO0B00F.html
		12 「『命のつながり』ミツバチ熱演」長野日報 (2015.3.10)	http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=33659
		13 「いのちのつながり伝える ダンスミュージカル舞台公演」南信州新聞 (2015.3.10)	
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_fop_01.pdf
4	<p>助成先: 尾崎幸仁</p> <p>(企画名) ミツバチの持ち帰る花粉荷中の含有農薬検査</p> <p>(活動内容) ミツバチの持ち帰る花粉荷を採取し、花粉荷中の残留ネオニコチノイド系農薬の分析を行なったが、花粉荷中からは農薬は検出されなかった。 都市部(大阪府立園芸高校・尼崎工業団地)、農村部(兵庫県小野市俵養蜂場・大阪府箕面市土々呂美)共に、採取ミツバチ花粉荷10検体からはネオニコ系農薬は検出されず、ミツバチ利用植物花粉の汚染状況(汚染植物の所在地を地図化する)という目的は達成できなかった。 農薬が検出されなかった要因の一つに、イネの開花期に計画通りに花粉採取分析が行なえなかったことが挙げられる。</p>	1 残留検査分析結果報告書	
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_ozaki_01.pdf

2014 年度

5

2014年度
助成先: 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン

(企画名)
ネオニコチノイド系農薬規制を実現するプロジェクト【bee my friend】

(活動内容)

持続可能な農業「人間(農業従事者、消費者)にも、生態系にもやさしい農業」が一般的となる社会を目指し、2016年までに2013年時点でのEUと同等のネオニコチノイド系農薬の規制を実現するための活動を2013年末から開始した。

・厚生労働省がネオニコチノイド系農薬クロチアニジンの規制緩和を検討し始めたことから、緊急オンライン署名を開始。約4週間で12,739筆もの署名が集まり、再審議となった。

・、専用のウェブサイト(<http://beejp.org/>)を開設。

・ネオニコチノイド現状を広く伝えるためにわかりやすくまとめたリーフレットを作成。1年間で8万部を配布した。

・パブリックキャンペーンでは、キャンペーンへの参加人数が目標の3万人を大幅に超えて 35,362 人以上にのぼった。

・再審議となっていたネオニコチノイド系農薬クロチアニジンの規制緩和に対し、第二回署名を開始。9,235 筆を農水省に提出した。

1	レポート「消えるハチ」	http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2014/pr20140418/
2	レポート「したたる毒」	http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2014/pr20140604/
3	レポート「花と毒薬」	http://www.greenpeace.org/japan/ja/library/publication/20150212toxic-edent/
4	レポート「PLAN BEE 無農薬の生活」	http://www.greenpeace.org/japan/global/japan/pdf/plan-bee-jp.pdf
5	リーフレット「みつばちをまもること＝畑とごはんをまもること」	http://www.greenpeace.org/japan/ja/library/publication/20140410bee-leaflet/
6	FB グループ「bee my friend」の参加を求めるシール	
7	新聞広告を朝日新聞、読売新聞に掲載(2014.8.8)	
8	インフォグラフィック	
9	都道府県アンケート調査・意識調査の報告書	http://www.greenpeace.org/japan/ecolabel/
10	「市民の声が厚労省を動かした」週刊エコノミスト(2014.4.29)	
11	「ミツバチ大量死?の農薬、残留基準緩和へ 厚労省」朝日新聞(2014.12.25)	http://www.asahi.com/articles/ASGD_S4HCLGDSULBJ00D.html
12	「ミツバチ大量死」との関連が疑われる農薬に、世界中で規制の動き。日本は逆行」Harbor Business Online(2014.12.31)	http://hbol.jp/17431
13	「農産物『有機・農薬不使用』マーク、13 都県でグリーンピース調べ」オルタナオンライン(2015.2.9)	http://www.alterna.co.jp/14538
14	「ネオニコ農薬食品基準 公募意見『99%緩和反対』なのに 厚生省、無視?さらに緩和案」東京新聞(2015.2.10)	
15	「農産物の『特別栽培』表示では農薬使用の危険度はわからない」Harbor Business Online(2015.2.16)	http://hbol.jp/25561

2014 年度		16 「ネオニコ系農薬の食品残留基準緩和案で再度パブコメ 21 日締切」オルタナオンライン(2015.2.20)	http://www.alterna.co.jp/14591
		17 「ネオニコチノイド系農薬 予防原則に立つ規制を」佐賀新聞(2015.2.20)	
		18 「ネオニコ農薬基準緩和見直しが一転 さらに 16 作物の基準緩む」日本消費経済新聞(2015.2.25)	
		19 「『ネオニコチノイド規制緩和反対』署名 9235 筆を農水省に提出」オルタナオンライン(2015.3.20)	http://www.alterna.co.jp/14763
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_gpj_01.pdf
6	助成先:ネオニコチノイド研究会 (企画名) Worldwide Integrated Assessment on Systemic Pesticides の日本語版作成 (活動内容) Worldwide Integrated Assessment on systemic pesticides の日本語版作成し、PDFファイルにて公開。	1 Worldwide Integrated Assessment on systemic pesticides の日本語版 PDF ファイル	http://www.actbeyondtrust.org/report/1928/
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_wia_01.pdf

2015 年度

助成先:NPO法人 河北潟湖沼研究所

(企画名)
集落営農によりつくるネオニコフリーエリアと田んぼトレーサビリティへの取り組み

(活動内容)

■ネオニコ不使用の生きもの元気米 3 トンを流通させる生産体制においては、2015年度 6 農家 7 筆の水田により生産を行い、生産量は目標を上回り約 5 トンとなった。

■流通の仕組みづくりにおいては、各種キャンペーンの展開により流通の契機とする方向として、グリーンピース・ジャパンとの早期予約によるネオニコフリーエリアの確保については 1.4 トンの販売契約を得る事ができ、1 軒の農家と契約することによりネオニコフリーエリアとして1 筆の水田を増やした。また、自然保護協会との連携やロハスフェスタ in 東京(秋)、アースガーデン等の出店により一定量を販売した。今のところ大口の販売ルートは確保できていないが、個人を中心にリピーターも多くなり、予定の 5 トンは完売した(定期購入者の 4 月以降発送分は除く)。

■集落営農組合を見越した農家との連携としては、1 農業法人との連携はできており、水田除草剤以外の農薬の使用もおこなわないことが可能な体制となっているため、大規模に生きもの元気米の生産を増やす事は可能となっている。今後、流通の確保とともに米の保管場所を確保することができれば、30 トン程度の生産体制をつくることを展望できる。

1

1	「農地が舞台の環境保全」『北國新聞』(2015.6.5 夕刊)	
2	「水辺の生きもの守る米作り、報告会、琵琶湖博物館」『朝日新聞』(2015.12.11)	
3	第 6 回 琵琶湖地域の水田生物研究会案内チラシ	
4	NPO 法人河北潟湖沼研究所研究報告会講演資料「河北潟周辺の圃場におけるラジコンヘリによる農薬の一斉空中散布前後での陸生無脊椎動物群集の比較」	http://kahokugata.sakura.ne.jp/pdf/p Amph/abt_genkimai.pdf
5	No! ネオニコ No! 畦の除草剤 田んぼはカエルがいっぱい クリアファイル	
6	ロハスフェスタ用に作成したチラシ	
7	アースガーデン用に作成したチラシ	
8	生きもの元気米栽培水田で確認された生物一覧	http://kahokugata.sakura.ne.jp/ikimonogenkimai/index.html
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_kahokugata_01.pdf

助成先:NPO法人 F.O.P

(企画名)
ミツバチからのメッセージ

(活動内容)

ミツバチの大量死問題を描いたお話「だれもしらないみつばちのものがたり」をもとに、信州日本みつばちの会が拠点とする日本で最も美しい村 中川村にて、7 歳から 60 代の幅の広い年齢で、ジャズ、アフリカン、ヒップホップ、フラ、コンテンポラリー、日本舞踊と多様なジャンルのメンバーが集まってみつばちの生態を表現したダンスミュージカルと、伊那谷に起きているみつばち現状・私たちが選ぶこれからの未来をまとめた映像作品を制作。

web サイト

<http://fop-jp.net/bee-dance-mov/>

予告編

<https://youtu.be/kyWuFt1hMJE>

2

1	完成特別試写会チラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_fop_01_1.pdf
2	告知映像	http://fop-jp.net/bee-dance-mov/
3	サウンド CD(上映会および以下の委託先で販売) てくてく 長野県飯田市上郷飯沼 2234-5 TEL:0265-53-5980 たろう屋 長野県上伊那郡中川村片桐 2877-4 TEL:0265-88-4111	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_fop_01_4.pdf
4	DVD、ブルーレイ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_fop_01_4.pdf

2015
年度

5	パンフレット	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_fop_01_5.pdf
6	ネオニコリーフレット(abtリーフレットを印刷配布)	http://www.actbeyondtrust.org/neonico_leaflet/
7	アンケート	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_fop_01_7.pdf
8	飯田市上映会チラシ、ポスター	
9	『みつばちのものがたり』ダンスミュージカル映像化 中川村で完成試写会 全国各地で自主上映へ」南信州新聞(2016.3.16)	
10	「ミツバチの大量死テーマの映画上映 あす飯田で一般公開」朝日新聞長野東北信版(2016.4.14)	
11	ミュージカル告知サイト	http://fop-jp.net/bee-dance-mov/
12	メイキング映像「ミュージカルができるまで」	https://www.youtube.com/watch?v=J88-x8erUfA&feature=youtu.be
13	ミツバチダンサーよりメッセージ	https://www.youtube.com/watch?v=PNU8vQUeYDE&feature=youtu.be
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_fop_01.pdf

2015
年度

3

助成先:公益財団法人 日本自然保護協会

(企画名)

浸透性農薬の生態系影響についての日本国内の生態学コミュニティへの普及啓発活動

(活動内容)

国内の生態学研究者および各地域の自然保護団体を主な対象として、ネオニコチノイド系農薬の生態系影響と今後の利用管理の目指すべき方向性について議論・普及啓発するためのシンポジウムを開催した。

シンポジウムは2015年11月21日に東京都で開催し、IUCN 浸透性殺虫剤タスクフォース委員長のベイレフェルト氏を含む国外の専門家2名、国内の専門家3名に講演いただいた。シンポジウムには研究者・自然保護市民団体を含む約150名の多様な方が参加し、約7割の方が「満足」だったとアンケートで回答した。本シンポジウムの様子はインターネット中継を行ったほか、各演者の発表の動画・資料を含んだ結果概要レポートを日本自然保護協会のウェブサイト(<http://goo.gl/paS8ly>)で公開した。

1	シンポジウムの開催(2015.11.21)	
2	シンポジウムのネット中継(ustream)	
3	演者らの講演・総合討論の動画ファイルおよび講演ファイル(公開の許可が得られたもののみ)	
4	上記3を含む開催結果概要レポート(ウェブページとして公開)	http://www.nacsj.or.jp/katsudo/satomoni/2015/12/post-9.html
5	シンポ参加者からのアンケートの結果要約レポート(関係者に配布可能な形で作成)	
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_nihonshizenhogo_01.pdf

2015
年度

4	<p>助成先:公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク</p> <p>(企画名) 農場から食卓までを通じたネオニコフリーの実践に向けた意識調査と啓発</p> <p>(活動内容) ネオニコチノイド系農薬の削減には、生産者・流通加工業者・消費者それぞれの意識を向上させることが重要と考える。そのために、ネットワークを活用してアンケート式意識調査を行ない、認知度や普及の可能性を調査・分析し、その結果をシンポジウム等にてフィードバックした。</p> <p>■生産者・流通加工業者・消費者を対象とした意識調査の実施 さまざまな生産者・流通加工業者・消費者団体等に協力を仰ぎ、811名より回答いただいた。(うち生産者121名、流通加工従事者94名)</p> <p>■意識調査の集計・分析・報告 上記回答をまとめた。分析は東北大学農学部の学生に協力を得て実施。ネオニコチノイドという言葉が「聞いたことがない」が58%、ネオニコチノイド系農薬の一種の食品中の残留基準を緩和したことは90%が知らなかったと回答し、認知度の低さが明確となった。</p> <p>■ネオニコチノイドシンポジウム「家庭にも潜む話題の新農薬ってなあに?～知らずに食べていませんか?～」の開催(2016年2月11日) 水野玲子氏を講師に招き、ネオニコチノイド系農薬の基礎知識や状況についての講演、アンケート分析結果の解説、ネオニコ不使用の取り組みを行なっている生産者・流通加工業者の事例紹介、会場全体のディスカッションを行った。県内外より81名が参加し、会場では活発な質問が出され、これから何ができるのかを考えた。</p> <p>■プロジェクト結果報告 アンケートの分析結果やシンポジウムの内容を活動報告書にまとめ、アンケート協力者や協力団体にフィードバックした。また一般向けには、アンケート結果およびネオニコチノイド系農薬の認知と海外と日本の動きの違いなどについてまとめたクリアファイルを作成した。</p>	1	『農場から食卓までを通じたネオニコフリーの実践に向けた意識調査と啓発』2015年度調査活動報告書	http://www.melon.or.jp/melon/img/paper16/160524neonico.pdf
	2	MELON 情報紙(2015年9月号調査開始、2016年1月号アンケート結果概要、4月号シンポジウム)	http://www.melon.or.jp/melon/syuppahnhanbai.html	
	3	クリアファイル		
	4	「MELON ネオニコシンポジウム 農業と家庭でもネオニコ農薬の規制を～川内のシンポジウムで強調」NPO 法人環境保全米ネットワーク情報紙『こめねっと』第89号(2016.3.31)		
	5	MELON ブログにてシンポジウムの開催報告(2016.2.21)	http://blog.canpan.info/melonblog/daily/201602/21	
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_melon_01.pdf	

2015
年度

5

助成先:小織 健央

(企画名)

つなげたい！ひろめたい！ミツバチまもり隊！

(活動内容)

■「みつばち音楽祭」では、来場者 150 名、出演チーム 10、出店 25 など、地域行事としては比較的大規模のイベントを成功させた。農業ネオニコチノイドの危険性からミツバチの減少に警告を発した記録映画『ミツバチからのメッセージ』の上映会も同会場で行い、大人 24 名、子ども 7 名の参加であった。

上記の記録映画の上映会を、4 月から 3 月までの間に 10 回実施し、参加人数は延べ 155 名(大人)に上った。映画上映後に、質問や意見、感想など出し合う機会を設けた。参加者へのアンケートの回答では、農業問題に初めて気づいたとか環境の大事さを強調するなど、おおむね積極的な反響があった。

■当会ホームページ <http://mitsumamo.pw/> やメーリングリストの開設は、対外的広報や会員連絡に威力を発揮し、会の強化、運営機能の活性化につながった。メーリングリスト会員は現在 86 名、会費会員は 29 名。Facebook ページへの“いいね！”数は、296 件(‘16 年 3 月時)と順調に伸びた。また、会の活動を知らせ参加をよびかけるパンフレット「ミツバチまもり隊」は、2000 部作成しイベント毎に配布した(累計900 部)。

■地域祭などでは「ミツバチまもり隊」の幟をたてて出店参加をし、飲み物、ポップコーンなど、またオリジナルポストカードを販売し、「ミツバチまもり隊」独自の展示や資料の配布を行った。

■県知事、市長など地域行政に対しては、ネオニコ農業からの撤退を求める要請書を出し、それぞれからの回答を得た。しかし、行政からの回答からうかがえるように、私たちの活動が理解され浸透したとは言い難く、市民レベルに根を張った活動のさらなる飛躍が必要であると実感させられる。

1	パンフレット「ミツバチまもり隊」(会活動の紹介と入会呼びかけ)	
2	「ミツバチは心安らぐ友達 地域の『ミツバチまもり隊』にも参加」The Big Issue 日本版(2016.1.1)	
3	「生態系守り自然と共存 ミツバチ減少に警鐘」読売新聞しが県民情報(2016.3.8)	
4	高島市への質問状「『水稲病害虫防除のお知らせ』についての要望」(2015.6.15)	http://noneonicotakashima.jimdo.com/%E3%81%93%E3%82%8C%E3%81%BE%E3%81%A7%E3%81%AE%E3%82%A2%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3/
5	滋賀県知事への質問状「ネオニコチノイド系農薬の使用中止を求める要望」(2016.1.24)	http://noneonicotakashima.jimdo.com/%E3%81%93%E3%82%8C%E3%81%BE%E3%81%A7%E3%81%AE%E3%82%A2%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3/
6	インターネットテレビ「高島みてねっと！」(2015.7.2)	https://www.youtube.com/watch?v=X5uPPkIx5oU&feature=youtu.be
7	「高島ガイド」おっくん！みつばち音楽祭 2015 滋賀・高島市	
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_saori_01.pdf

<p>助成先: 国際環境NGO グリーンピース・ジャパン</p> <p>(企画名) Bee my friend プロジェクト 2年目(ミツバチ保護を呼びかける全国給食ランキングプロジェクト)</p> <p>(活動内容) ■「子どもの食の安全を考える」。この問題意識を入りに、有機・無農薬の生産者と保育園・幼稚園を含む消費者がつながるきっかけとなることを目的とした全国給食プロジェクトを実施。その成果として、保育園・幼稚園に有機給食を広げるためのアイデア集である「ハッピーランチガイド」(以下 HLG)を以下のとおり制作・発表。 1)7月7日「関東版」 2)9月29日「全国版」 3)1月14日「遺伝子組み換え対策版」</p> <p>■「子ども・ミツバチ保護法」を求める署名では、2015年4月8日から、オンラインや書面で署名を呼びかけ、2016年4月18日までの1年間で23,655筆を獲得。署名では主に以下の二点を農林水産大臣、厚生労働大臣に要請した。 ・私たちの食べ物や子どもの健康、ミツバチなどの花粉媒介生物を、農薬の影響から守る法律を作ってください。 ・有機農業や自然農法など、生態系に調査した農業の価値を評価し、支援を強化してください。 さらに署名キャンペーンの一環として、アメリカで登録拒否されたスルホキサフロルが日本で登録されようとしていた中、厚生労働省が実施していたパブリックコメントを呼びかけ、2016年3月スルホキサフロルの登録保留させることができた。</p>	<p>1 ハッピーランチガイド関東版/全国版/遺伝子組み換え版(Web版は随時更新)</p> <p>2 ハッピーランチガイドリーフレット(ファンドレイズ部が自己資金で製作)</p> <p>3 ハッピーランチガイド 大地を守る会版</p> <p>4 「みつばちをまもること=畑とごはんをまもること」改訂版(2015.9、2016.3)</p> <p>5 レポート「生態系農業:人を中心とした食と農業の未来像—7つの原則」</p> <p>6 レポート「農薬と健康—高まる懸念」</p> <p>7 レポート「遺伝子組み換え失敗の20年～遺伝子組み換え作物をめぐる7つの「神話」と現実～」(自己資金で翻訳・発表)</p> <p>8 レポート「有機農産物と農薬に関する消費者意識調査」</p> <p>9 レポート「ミツバチと食の危機 世界のネオニコチノイド系農薬規制から見える日本の課題」</p> <p>10 ハッピーランチガイド広告記事掲載『月刊クーヨン』3月号 p.77(2016.2.3)</p> <p>11 ハッピーランチガイド広告記事掲載『Women's park』ウェブサイト(2016.1.18～1.25)</p> <p>12 声明「ミツバチに危険な農薬への規制強化を 欧州食品安全機関によるネオニコチノイド系農薬の最新リスク評価発表を受けて」(2015.8.27)</p> <p>13 声明「厚生労働省の判断は『子どもや妊婦への脅威』—ネオニコチノイド系農薬クロチアニジンおよびアセタミプリドの食品残留基準の大幅緩和を受けて」(2015.5.19)</p> <p>14 声明「厚生労働省、異例の決定 ネオニコチノイド系農薬『スルホキサフロル』登録保留」(2016.3.9)</p>	<p>https://issuu.com/greenpeacejapan/docs/hlg_vol2_issuu</p> <p>https://issuu.com/greenpeacejapan/docs/ecofarming_jp_web?e=17460064/30737134</p> <p>http://www.greenpeace.org/japan/Global/japan/pdf/pesticides-health-ip.pdf</p> <p>http://www.greenpeace.org/japan/Global/japan/pdf/gmo20yrs_jp.pdf</p> <p>http://www.greenpeace.org/japan/Global/japan/pdf/20160323_Organic.pdf</p> <p>http://www.greenpeace.org/japan/Global/japan/pdf/20160427-neonic-ban.pdf</p> <p>http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2015/pr20150827/</p> <p>http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2015/pr20150519/</p> <p>http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2016/pr2016030901/</p>
--	---	--

2015
年度

15	「ネオニコチノイド問題の包括的解決へ、『子ども・ミツバチ保護法』実現求める署名」オルタナ・オンライン(2015.4.8)	http://www.alterna.co.jp/14888
16	「総合的な農薬規制の枠組みを求める署名運動、変化が求められる日本」有機農業ニュースクリップ(2015.4.8)	http://organic-newsclip.info/log/2015/15040657-1.html
17	「ハチがいなければ食糧もない！子ども・ミツバチ保護法求める署名開始」日本消費経済新聞(2015.4.15)	
18	子ども「ミツバチ保護法」実現求める署名」オルタナ・メルマガ(2015.4.15)	
19	「厚労省、ネオニコチノイド系農薬の食品残留基準を緩和」オルタナ・オンライン(2015.5.19)	http://www.alterna.co.jp/15101
20	「『農薬のカクテル』が健康に影響？環境 NGO がレポート」オルタナ・オンライン(2015.6.6)	http://www.alterna.co.jp/15201
21	「ネオニコチノイド系農薬削減 訴える冊子作成」毎日新聞(2015.6.18)	
22	「『ネオニコの製造販売はビジネスリスク』住友化学株主にアピール」オルタナ・オンライン(2015.6.23)	http://www.alterna.co.jp/15332
23	「ネオニコ系農薬の規制求め 住友化学株主総会で訴え」週刊金曜日(2015.7.3)	
24	「大幅緩和 日本に批判/ネオニコ系農薬 EU は規制」しんぶん赤旗(2015.8.24)	
25	「欧州食品安全機関 ネオニコのミツバチへの危険性を確認」有機農業ニュースクリップ(2015.8.27)	
26	「EU ネオニコチノイド禁止継続へ 英は市民の反対押し切り一部を解禁」日本消費経済新聞(2015.9.15)	
27	「日本の脱ネオニコチノイド農薬、道筋はどこに」オルタナ・オンライン(2015.9.17)	http://www.alterna.co.jp/16224
28	「グリーンピースが世界食料デーの今日、『人を中心とした食と農業の未来像ー7つの原則』を発表」日刊ベリタ(2015.10.16)	http://www.nikkanberita.com/read.cgi?id=201510162111425
29	「ネオニコ系農薬「スルホキサフロル」米国は登録取消、日本は許可の方向」日本消費経済新聞(2016.1.15)	

2015
年度

30	日本は世界有数の農業大国？」ケー ヨン(2016.2.3)	
31	「『日本のネオニコ系農薬基準』は EUの数十～数百倍!？」日刊SPA! (2016.2.16)	
32	「ハチなどの経済価値は65兆 円!?!…花粉媒介生物の貢献が凄 すぎる」まとめNAVER(2016.2.27)	http://matome.naver.jp/odai/2145652987769314301
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2016/07/abt_2015report_gpj_01.pdf